Aqua Clara アクアクララ東北 × より、そう、ちから。東北電力

「飲料水宅配サービス」を開始

宮城県内11市町村で展開中



東北電力は，企業グループである株式会社アクアクララ東北（以下，アクアクララ東北）と連携し，3月2日より，東北電力の会員制WEBサービス「よりそうｅねっと」の会員を対象に「飲料水宅配サービス」の提供を開始しました。

「飲料水宅配サービス」とは

- いつでも熱湯や冷水が利用できる「ウォーターサーバー」のレンタルと，おいしくて安全なお水を「ウォーターボトル」としてご自宅までお届けします。
- 申し込み費用は無料で，ウォーターサーバーの設置からサーバーの定期メンテナンス・故障対応を専門スタッフがフルサポートします。

特徴

- 赤ちゃんやペットにも安心なお水
- 熱湯・冷水がすぐに使える
- お水をご自宅までお届け
- メンテナンス・故障対応が無料
- 災害時の備蓄水として利用可能
- ボトル購入ノルマがない

ご利用の流れ

※アクアクララ東北が一貫してサービス提供

東北電力のHPからお申し込み
申し込みフォームからお申し込み

ウォーターサーバー設置
専門のスタッフがお客さまの希望日にご自宅へ訪問し，ウォーターサーバーを設置

ボトル注文受付
WEB，電話などでボトル注文受付

ボトルの配達・回収
お客さまのご自宅まで，配達員がボトルをお届けし，空のボトルを回収

メンテナンス・故障対応
追加費用なしで，定期メンテナンス，故障対応実施

対象エリア

宮城県内の11市町村（仙台市，塩竈市，多賀城市，名取市，富谷市，大和町，大郷町，松島町，利府町，七ヶ浜町，大衡村）

※「よりそうｅねっと」の会員が対象

アクアクララユーザーの声

集合住宅なので，水道水に安心感がなかったのですが，アクアクララにして安心して水が飲めます。

3.11の地震の時，ライフラインが止まりましたがアクアクララの買い置きがあって助かったと母も言っていました。（30代 男性）



食に関してできるだけ添加物の多いものは摂らないように心掛けています。アクアクララは安心できるお水。

ゴミも出ないし，ウォーターサーバーのデザインも利用システムもシンプルなところが気に入っています。（50代 女性）



両社担当者に お得情報を伺いました♪



販売推進部（販売企画）
松井 裕莉子 さん

松 販売部門では＋ONeサービスの拡充を図っており，今回はグループ企業のアクアクララ東北さんとのコラボが実現しました。

佐 よりそうｅねっとの会員さま向けに，お得な特典をご用意しました!
よりそうｅねっと会員さまが，東北電力の専用ホームページから新たにお申し込みいただくと，なんと「あんしんサポート料6カ月分」と「ウォーターボトル2本」が無料です。

松 大震災から10年。万が一の備えとして，今なら「しっかり備えてあんしんキャンペーン」として，先着30人の皆さまに，ボトルをさらに4本追加でプレゼントします。

高 「アクアクララ」なら災害で断水しても，いつでも安全でおいしいお水が使えるので，日常使いはもちろん，備蓄水としても安心です。

松 お得に始められる今がチャンスです!

佐 対象エリアのご家族・お知り合いにもおすすめです!

松佐高 今後も，東北電力グループ一体となって，くらしのトータルサービス「より、そう、ちから。＋ONe」の下，お客さまのより豊かで快適なくらしや，安全・安心なくらしの実現をサポートするさまざまなサービスをご提供していきます!

特設サイトからの申し込みはこちら



アクアクララ東北 営業課

課長 **佐藤 明生 さん**

エリアマネージャー **髙橋 寛幸 さん**

この印刷物は，環境にやさしい「水なし印刷」「植物油インキ」を使用しています。

BRIDGE 2021.3 Vol.726

BRIDGE 3



冊子版BRIDGE最終号
2021年5月
デジタル化してリニューアル!

東北電力・東北電力ネットワーク 社誌［ブリッジ］ March 2021 Vol.726

CONTENTS

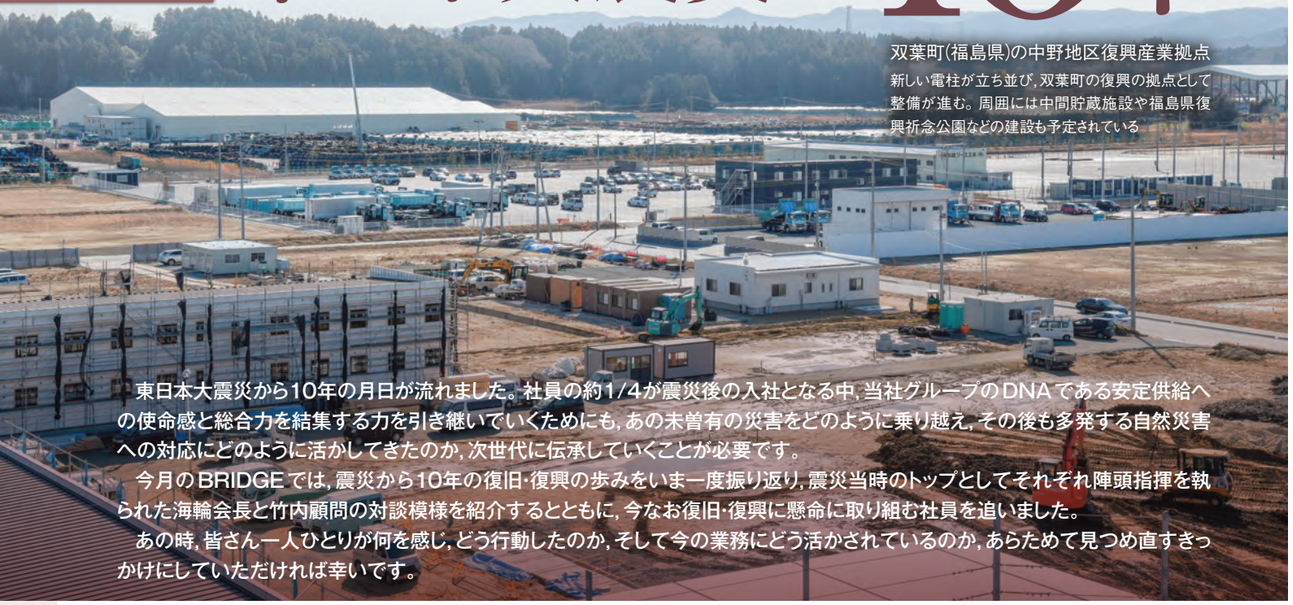
01 【特集Ⅰ】東日本大震災から10年
21 【特集Ⅱ】 -中長期ビジョン「よりそうnext」の実現に向けて- 阿部発電・販売カンパニー長インタビュー

16 2021年度東北電力グループ中期計画の力点を公表
17 役員人事を決定
20 働き方改革「みな、おす、ちから。」やってみた・やってみよう 東北電力テレワーク
25 Close Up 第5回「T-Master」認定証授与式を開催
27 BS Collection 2020
28 就活セミナー「リケジョトーク」を開催
28 第一線事業所オンラインミーティングを開催
29 写真で見る Monthly Flash News
29 賞味期限間近の備蓄非常食を有効活用
30 退職者の方々
31 「飲料水宅配サービス」を開始

発行所／東北電力株式会社ソーシャルコミュニケーション部門　発行人／小野 誠彦　印刷／今野印刷株式会社　二〇二一年三月二十日発行

特集Ⅰ
Feature

東日本大震災から10年



双葉町(福島県)の中野地区復興産業拠点
新しい電柱が立ち並び,双葉町の復興の拠点として整備が進む。周囲には中間貯蔵施設や福島県復興祈念公園などの建設も予定されている

東日本大震災から10年の月日が流れました。社員の約1/4が震災後の入社となる中,当社グループのDNAである安定供給への使命感と総合力を結集する力を引き継いでいくためにも,あの未曽有の災害をどのように乗り越え,その後も多発する自然災害への対応にどのように活かしてきたのか,次世代に伝承していくことが必要です。

今月のBRIDGEでは,震災から10年の復旧・復興の歩みをいま一度振り返り,震災当時のトップとしてそれぞれ陣頭指揮を執られた海輪会長と竹内顧問の対談模様を紹介するとともに,今なお復旧・復興に懸命に取り組む社員を追いました。

あの時,皆さん一人ひとりが何を感じ,どう行動したのか,そして今の業務にどう活かされているのか,あらためて見つめ直すきっかけにしていただければ幸いです。

社長メッセージ ～震災で得た教訓を成長の糧に～

東北地方を中心に甚大な被害をもたらした東日本大震災から10年を迎えます。あらためて,お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げるとともに,被災された皆さま,今なお厳しい避難生活を余儀なくされている多くの方々に,心からお見舞いを申し上げます。

この震災では,太平洋側を中心に大きな被害を受け,延べ停電戸数は,エリア内の総戸数の約7割にわたる486万戸にも及び,発電所や送配電設備も津波による甚大な被害を受け,実に,供給力の約半数を失うという未曽有の事態に見舞われました。

まさに当社グループにとって最大の危機といえる状況でしたが,さまざまな困難に直面しながら,グループ一丸となってそれを乗り越えてきました。一方で,地域の皆さまに停電でご不便・ご迷惑をお掛けするとともに,電力供給ひっ迫に伴う節電へのご協力や,電気料金の値上げなど,多大なご協力・ご支援をいただいたことも忘れてはなりません。

私たちにとって,この震災は決して忘れることのできない出来事であり,大きな悲しみとともに,数多くの教訓をもたらしました。

震災後10年という節目に当たり,あらためて皆さんに以下の点をお願いします。

1. 震災を風化させない

震災で得た経験・教訓は,当社グループにとって貴重な財産であり,決してこれを風化させてはなりません。震災後に入社した若い社員の皆さんが多くなる一方で,震災経験者が減ってきておりますが,この地に根差し,インフラを担う当社グループだからこそ,当時の経験や教訓をしっかりと伝え・受け継いでいく必要があります。私たちは,この震災にどう立ち向かい,乗り越えてきたのか,この10年という節目で,あらためて社員一人ひとりが当時を振り返っていただきたいと思います。

震災経験者は,「何を経験し,どう対処したのか」,「どんな苦労があって,何を感じ,学んだのか」など,当時の経験談を語り続け,若い世代に伝えてください。若手社員は,この震災を自分事として捉え,先輩の話や資料をもとに想像力を働かせて,業務に活かす姿勢が必要です。

震災10年を機に作成した各種資料※を活用しながら,職場で対話を実施するなど,多角的な視点をもって,当時の対応,そこで学んだ教訓について振り返り,それを次の10年につなげるきっかけにしていただくようお願いします。

※震災アーカイブに掲示されている資料,海輪会長と竹内顧問による対談,防災動画資料など

2. 次の災害に備える

東日本大震災も含め,当社グループはこれまで幾多の災害を乗り越えてきましたが,この原動力は,長年にわたり積み重ねてきた災害への「備え」と,社員一人ひとりに根差している安定供給への「使命感」です。

昨今の自然災害の激甚化・複雑化や,本年2月13日深夜に発生した最大震度6強の地震など,いまだ続く地震の脅威に対し,危機管理能力の向上と災害への対応を一層強化していかなければなりません。私たちが震災から得た教訓である「常日頃から自然災害に備える」こと,原子力については「想定外の事象に備え,安全についての謙虚さを失わない」こと,これを念頭に,訓練や日々の業務の中で,災害への「備え」に磨きをかけていただくようお願いします。

また,災害時に社員が安定供給への「使命感」で総合力を結集する力は,当社グループの誇るべきものであります。法的分離により分社はしましたが,当社グループ社員の共通の価値観として,今後もこれを大切にし,日々の業務に当たっていただくようお願いします。

加えて,地域社会の一員として,ご自身,ご家族,地域社会を守るためにも,一人ひとりが防災に関する知識,実践力,心構えを身に付けていただくようお願いします。

3. 地域社会に「より、そう」

当社グループが東日本大震災を乗り越えることができたのは,多くの関係者の方々,地域の皆さまからのご理解・ご協力があったからです。また,震災時,女川原子力発電所では,着の身着のままで避難してきた近隣住民の方を受け入れ,約3カ月にわたり寝食を共にしました。

これは,まさに当社グループが長年築き上げてきた地域社会との信頼関係があったからこそであり,今後も地域の皆さまへの感謝を忘れることなく,「東北電力グループなら大丈夫」という信頼,「東北電力グループならやってくれる」という期待にしっかりと応えていかなければなりません。

震災から10年が経過し,今なお多くの方々が避難生活を続けていますが,被災地域を支えるインフラ会社として,グループスローガン「より、そう、ちから。」の下,今後も地域社会によりそい,被災地の復興,東北・新潟の発展に向け,社員一人ひとりがこれまで以上に「何ができるか,どうしたらできるか」を考え,行動に移していただくようお願いします。

当社グループを取り巻く事業環境が大きく変化している中,私たちは,「東北電力グループ中長期ビジョン」の実現に向け,取り組みを進めているところです。東日本大震災で学んだこと,そこで得た教訓は,電気事業はもとより,新たな事業分野においても,私たちのDNAとして必ずや強みとなり,成長の糧になると考えています。

折しも,今年は,創立70周年を迎える年でもあります。これを契機に,当社グループと地域社会の明るい未来に向けてグループ一丸となって邁進していきましょう。

2021年3月1日

東北電力株式会社 取締役社長 社長執行役員　樋口　康二郎
東北電力ネットワーク株式会社 取締役社長　坂本　光弘

震災の風化防止に向けて

東日本大震災アーカイブ

東日本大震災から10年目を迎えるに当たり,東北電力企業グループ内の震災伝承活動の一環として「東日本大震災アーカイブ」をS-WINGコラボサイトに開設しました。

これまで,各室部・事業所・企業グループ単位で作成された震災関連資料は,それぞれ制作元や部門系列でとどまっていましたが,今回これらを一元集約し,全社横断的に共有することで,東北電力企業グループのアセット(資産)として,千年に一度といわれる東日本大震災を次世代へ語り継ぎ,大きな自然災害を乗り越えた「マインド・知恵・力」を脈々と継承し,自然災害対応力を高めていきます。



3.11伝承ロード

海輪会長が東北経済連合会会長として評議委員を務める「一般財団法人 3.11伝承ロード推進機構」では,震災の経験と教訓を後世に伝えるために,被災地に数多くある遺構や展示施設を「震災伝承施設」として位置付け,施設の情報発信や伝承ツアーの企画支援など幅広い活動を展開しています。

https://www.311densho.or.jp/



本年3月,樋口社長が東日本大震災・原子力災害伝承館(双葉町)を訪問しました

震災から10年を振り返る

東日本大震災発生により当社は創立以来の最大の危機に直面しましたが,「朝の来ない夜はない」を胸に,グループ一体となって懸命に乗り越えてきました。
その復旧・復興の歩みを,「停電復旧と供給力確保」や「財務基盤の建て直し」,「原子力発電所の再出発」,「レジリエンス強化」などの切り口から振り返ります。

甚大な被害

2011年3月11日14時46分ごろに発生したマグニチュード9.0の巨大地震とその後の10mを超える大津波により,当社供給エリアは甚大な被害を受け,**供給力の約半分を失い**,延べ**486万戸(当社需要の約7割)が停電**。
中央給電指令所では,需給両面で甚大な被害が出ている中,需給バランスを一致させ,**電気の品質を維持するための綱渡りの状況が続く**。

800万kW以上の設備停止


仙台火力発電所


原町火力発電所


南相馬市

鉄塔設備被害 46基

電柱設備被害 約36,000基


気仙沼市


石巻市

変電所設備被害 75箇所


多賀城変電所

太平洋側の多くの事業所が被災


瓦礫に囲まれた釜石営業所


天井まで水に浸かった宮古営業所


車や瓦礫が流れ着いた気仙沼営業所

一刻も早い停電解消と供給力確保

停電解消を急ぐものの,電力需要の回復に対する供給力を確保できない恐れがあったため,**お客さまへの節電のお願いと計画停電の準備**をせざるを得ない状況に。


2011年3月15日 計画停電の社長会見


2011年夏
街頭で節電のお願い

供給力確保のため,被災火力発電所の早期復旧や休止中の火力発電所の運転再開,緊急設置電源の確保,自家発電の余剰電力購入などの対応を急いだ。
しかし,同年7月下旬には追い打ちをかけるように新潟・福島豪雨により29箇所(約100万kW)の水力発電所が停止。


休止火力の稼働
東新潟火力発電所港1号機
(2011年5月31日 営業運転開始)


緊急設置電源
東新潟火力発電所港3号系列
(2011年8月26日 営業運転開始)


新潟・福島豪雨により29箇所の水力発電所が停止
新郷発電所(喜多方市)

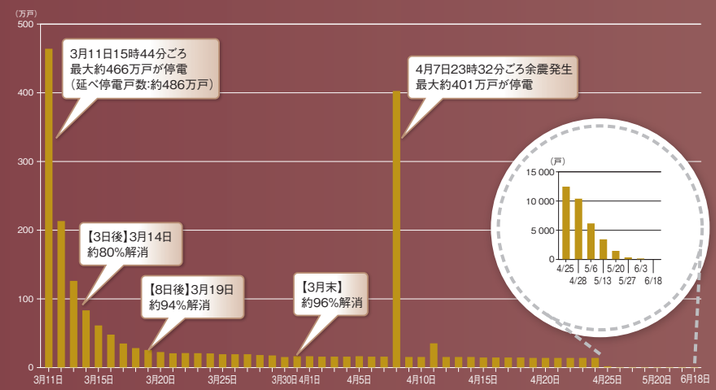
昼夜を問わない懸命な停電復旧作業により,**震災から約3カ月後**の6月18日には,復旧に**着手可能な地域の停電を全て解消**。
その陰には,**同じ使命感の下,燃料や資材,食料の調達などの後方支援,そして被災した地域の支援に取り組む社員の姿**があった。


瓦礫の中の建柱作業


震災発生から44分後,新潟から第1陣の応援隊が出発

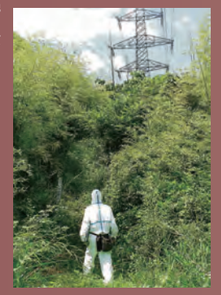

繰り返す余震の中,復旧を急ぐ

■震災による停電戸数の推移



(注1)停電戸数は,3月11日については同日の15時44分現在,4月8日は3時現在の数値を表しており,それ以降は停電状況を公表した日の最終報の戸数となっている
(注2)4月25日以降は,「津波などで公共的なインフラ,お客さま家屋等が流失してしまった地域のお客さま」などは含まない戸数となっている

福島第一原子力発電所事故により住民が避難を余儀なくされる中,**放射線量計を携え,設備保守や住民の支援**などに当たった。


警戒区域内の巡視点検

設備復旧の前進

震災や新潟・福島豪雨による設備被害の復旧工事が着々と完了を迎える。



石巻市長面・尾崎地区での配電設備復旧工事の完了をもって宮城支店管内の震災による停電は全て解消



鹿折変電所の復旧工事により，津波被害を受けた15箇所の変電所全ての復旧工事が完了



2013年3月29日 原町火力発電所2号機が営業運転再開。同年4月26日には1号機が営業運転再開



本名発電所および上田発電所が運転再開し，新潟・福島豪雨の影響により浸水被害を受けた設備の復旧作業などが終了

財務基盤の建て直し

五重苦※により大幅に悪化した財務体質を回復すべく，調達改革委員会の設置や工事の繰り延べ，役員報酬・社員給与削減などの**抜本的なコスト削減に取り組むが，自己資本比率の悪化に歯止めがかからず，電気料金の値上げを選択せざるを得ないこととなった（2013年2月14日電気料金値上げ申請，同年8月6日認可，同年9月1日改定）。**

ただし，**料金値上げに際しては，**①1日でも長い値上げ前料金の維持，②自由化部門を先行値上げせず，規制部門と同時に実施，③家庭向けの3段階料金のうち，第1，第2段階の値上げ幅を抑制，④福島第一原子力発電所の周辺地域から避難されたお客さまに対する電気料金などの特別措置の継続，⑤お客さまの省エネルギーの支援，といった**被災地をはじめ，お客さまのご負担を少しでも緩和するよう取り組んだ。**



電気料金値上げ申請

※五重苦
～震災後に直面した5つの大きな課題～

1. 電力需要の大幅な落ち込みによる収入減少
2. 甚大な設備被害による膨大な復旧コスト
3. 東京電力 福島第一原子力発電所事故による影響
4. 女川・東通原子力発電所の長期停止
5. 2011年7月の新潟・福島豪雨被害

原子力発電所の再出発

地震による激しい揺れと約13mの津波に襲われながらも，津波は敷地を越えず，**女川原子力発電所1～3号機は設計通り安全に停止。発電所には被災した地域の皆さまが避難し，約3カ月にわたり寝食を共にした。**

一方，**福島第一原子力発電所事故を契機に，原子力を取り巻く状況は一変**した。2013年7月には事故の教訓や海外の知見などを踏まえた「新規制基準」が施行され，女川2号機は同年12月に，東通1号機は翌年6月に審査を申請。女川2号機は2020年2月に国から原子炉設置変更許可を受領し，同年11月には立地自治体から事前協議了解を受領した。

女川2号機の運転再開は単なる再稼働ではなく，新たに生まれ変わるとの決意を込めて「**再出発**」と位置付け，地域の皆さまから信頼され，地域に貢献する原子力発電所として歩みを進めている。

現在，女川2号機は2022年度の工事完了を目指し，安全対策工事を進めており，東通1号機は地震・津波に係る審査への対応を継続している。

原子力発電所の「再出発」に向けた取り組みが一歩一歩進められている。



最大364人の地域の皆さまが発電所（体育館）に避難



村井宮城県知事から樋口社長に事前協議了解の回答文書が手交された



2022年度の工事完了を目指し安全対策工事を進める女川原子力発電所



2020年7月 東通原子力発電所の断層評価に係る審査が一通り終了

レジリエンス強化 ～想定外に備える～

当社グループは，これまでも幾多の自然災害を乗り越え，防災対策レベルを向上させてきたが，東日本大震災の教訓である**「常日頃から自然災害に備える」**ことと**「想定外の事象に備え，安全についての謙虚さを失わない」**ことを踏まえ，さらなるレジリエンスの強化に努めている。

陸上自衛隊東部方面隊との連携訓練



東日本高速道路との連携訓練



2020年4月1日より東北電力ネットワークのTwitter公式アカウントを開設。災害時は停電情報に加え，公衆感電事故防止の注意喚起などの情報も発信





2020年10月27日より停電情報をお知らせするスマホアプリの運用を開始

2013年11月14日 陸上自衛隊東部方面隊と連携協定締結



○大型ヘリ（自社機）の導入（1993年）
○簡易型衛星通信システムの導入（1994年）

○自治体などとの協定締結の開始
○自律分散型復旧体制の構築
○後方支援体制の構築
○配電ナビゲーションシステムの導入
○社員一斉呼出システムの導入
○災害復旧支援システムの導入
○対策本部内情報の一元管理
○本店対策本部の常設化
○地震被害推定システムの開発
○日建連東北支部との協定
○対策本部の分任体制構築
○陸上自衛隊（東北・東部）との協定
○空輸対応型低圧応急用電源車「灯（ToMoS）」の導入
○東京電力HDと原子力災害に関する協定
○北海道電力と原子力災害に関する協定
○海上自衛隊（舞鶴）との協定
○イオンやNEXCO東日本との協定
○海上自衛隊（大湊）との協定

東北6県と新潟県内の94%の自治体とも災害協定を締結（2020年12月現在）

防災対策レベルの向上

2003 2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021（年）

▲2005年新潟下越雪害
▲2005年宮城県沖地震
▲2004年新潟県中越地震
▲2003年宮城県北部連続地震
▲2003年三陸南地震
▲2008年岩手・宮城内陸地震
▲2007年新潟県中越沖地震
▲2011年東日本大震災
▲2011年新潟・福島豪雨
▲2012年暴風・大雨
▲2016年台風10号
▲2016年熊本地震（応援）
▲2018年北海道地震（応援）
▲2019年台風19号
▲2019年台風15号（応援）
▲2021年福島県沖地震

訓練
宮城県沖地震想定訓練（今後30年以内に99%の確率）
複合災害想定訓練（訓練年2回化）
複合災害想定訓練（シビアアクシデント想定）



原子力災害発生時を想定し，防護服を着用した状態での復旧を模擬した訓練を実施



2018年9月の北海道胆振東部地震に伴う応援派遣



2019年9月の台風15号に伴う東京電力パワーグリッドへの応援派遣





電力の安定供給・災害対応力の強化に向けたスマートグラスなどのIoTデバイスやドローンの活用



2019年10月の台風19号に伴う停電などの復旧対応



（当時:宮城県警察本部長）**竹内顧問** × **海輪会長**（当時:当社社長）

対談

震災当時のトップ同士が語る 次の世代へ伝えたいこと

未曽有の災害が発生したとき，住民の命とインフラを守る組織のリーダーは何を考え，どう決断したのか。今だから明かされるリーダーとしての苦悩や葛藤。そして，私たちは震災から何を学び，将来にどう活かしていくべきなのか。

震災当時，当社と宮城県警察それぞれの立場の対策本部長として陣頭指揮を執られた海輪会長（当時:当社社長）と竹内顧問（当時:宮城県警察本部長）に，当時の思い出や次の世代へ伝えたいことなどについて，対談いただきました。

［コーディネーター:総務部（防災・危機管理）主任　加藤 美紀さん］

震災当時を振り返る

はじめに，発災当時の初動対応について伺いたいと思います

海輪会長　発災当時は，名古屋に出張していたのですが，中部国際空港のテレビ画面で，津波に襲われている仙台空港の映像が流れ，言葉を失い，大きなショックを受けました。その後，どうにか新潟空港行きの便で飛び，夕刻には新潟支店に着きました。そこで，本店非常災害対策本部会議（対策本部）にテレビ会議で出席したのが初動です。まだ，被害の全容は分からない状況でしたが，大きな災害であることは分かりました。私は本部長指示の第一声として，**「当社はこれまでに多くの災害を経験して訓練を積んできた。今はその成果を出す時だ。落ち着いて対応すれば，必ず乗り切れる」**と発言しました。これは社員に対してはもちろん，自分自身が落ち着きを取り戻すためでもありました。

その後，夜中にチャーターしたタクシーで新潟から仙台に戻りました。途中のサービスエリアで，すでに出発していた新潟の応援隊と出会って，彼らを激励しつつ，翌12日未明にようやく本店に着きました。到着後，早朝から開催された対策本部では，被害状況の把握や設備復旧の優先順位，今後の対応方針について議論しました。



震災当時の海輪会長

その時，一番心配したのが，女川原子力発電所の状況でした。幸い，原子炉は全て安全に停止したものの，外部電源が5回線中4回線失われた他，一部設備に被害がありましたので，まずは外部電源の復旧を最優先にすることや電源車の投入について指示しました。加えて，当時原子力担当の梅田副社長にヘリで女川原子力発電所に向かってもらいました。その時，梅田さんは，「自分は原子力のプロだから随行者は不要。その分空いたスペースに支援物資をできる限り載せろ!」と言って出発したのを記憶しています。

その後も，次々と入ってくる火力発電所や送変電設備などの被害に関する情報から，設備の復旧や停電の全面解消には相当の時間がかかることを覚悟せざるを得ませんでした。さらに悩ましかったのは計画停電でした。発災3日目から需給がひっ迫した東京電力が計画停電を輪番で実施し，社会的に大きな混乱と批判を招きました。当社管内では，被災により電力需要が減少していましたが，その回復次第では，供給力不足になりかねない状況でしたので，**計画停電を準備せざるを得ない状況**になりました。直接の被災地は計画停電の対象外にしましたが，**地域のお客さまに広くご迷惑をお掛けすることは，大変申し訳ないという思いがあり，社長が自ら丁寧に説明すべき**と考え，3月15日に記者会見を行いました。結果的には計画停電を一度も発動させずに済みましたが，初動において緊迫した場面の一つでした。そのような初動対応が落ち着いた3月20日，その後の長期的な対応を覚悟し，「東日本大震災総合対策本部」を設置しました。

竹内顧問は当時，宮城県警察本部長として陣頭指揮を執られましたが，どのように初動対応されましたか。

竹内顧問　私は発災当時，警察本部の本部長室にいまして，大変な揺れを文字通り体感しました。初動対応は，本部体制の設置と要員の確保であり，直ちに非常体制の災害警備本部を設立し，要員は警察署含めて非常招集をかける，そして，警察庁に広域緊急援助隊の派遣を要請する。この辺りまでは，ほぼ流れ作業で判断事項はなかったのですが，そこから先が，初動という言葉に入りきらないくらい大変でした。あれだけの規模感ですと，例えがいいかどうか分からないのですが，国連のPKOというのがあります。そこに，文民警察という，同じ警察でもその質が全く違う業務なのですが，それに似ていました。毎日，新たに膨大な数の犠牲者が報告され，継続的に被害が続いているようなイメージでした。



震災当時の竹内顧問（写真提供:宮城県警察）



瓦礫の中，行方不明者を捜索する宮城県警察（写真提供:宮城県警察）

県警での業務は，住民の命に直結する，生き死にに関わる問題が大半でした。具体的には，被災情報の収集，避難誘導，救出救助，捜索，検視，身元確認，行方不明者対策，避難者の安全・安心の確保，パトロール，交通対策。その合間に要人警護も行います。私は本部にいる時間が長かったのですが，感覚としては，**現場のオペレーションをやる部隊長。しかも，命，生き死にの問題を扱わなければならない**，という課題がありました。

海輪会長は直面された課題に対して，どのような対応をされましたか?

海輪会長　発災から10日目くらいに私が対策本部の中で指示したことは，4点ありました。1点目は被災設備の迅速な復旧と停電の全面解消です。広域停電は3日で約80%，8日目で約94%まで解消できましたが，残された地域の方々のためにも速やかに全面解消するよう指示しました。2点目は，東京電力の福島第一原子力発電所事故に対する不安や情報の混乱がありましたので，情報収集を的確に行い冷静な対応をすること。3点目は，地域の皆さまや復旧に携わる人たちのためにも，計画停電は絶対に行わないという心構えで，供給力を確保し，大口のお客さまに節電を依頼するなど需給両面の対策を実施すること。最後に，地域の復興への貢献という視点で，地域の皆さまが復興に立ち上がるプロセスにおいて，当社がどのように寄り添っていけるか，全員で考えて対応していこうと呼び掛けました。

陣頭指揮を執る上で，どのようなことを意識しましたか

竹内顧問　震災前から**自分は「チーム宮城県警」のキャプテンだと思っていました。キャプテンは体を張って自分**



の役割をしっかり果たすと同時に適時･的確にメッセージをメンバーに出し，鼓舞する。その両方が必要だと思いながら対応していました。リーダーとしての役割としては，例えば，警察庁にお願いをするなど，さまざまなことについて交渉･要請することと認識していました。また，県警は県の組織ですので，県の災害対策本部会議に出席するのはもちろんのこと，その前後に知事とかなりの回数，一対一で面談をし，いろいろなお願いをしました。そして，当時の現場は極めて厳しい状況だったため，戦場ではないですが，疲れ切った職員が振り返ると，はるか後方の本部に旗が立っていて，その本部がしっかりと機能し，現場をバックアップしている。自分はそういう旗のような存在であり続けたいと思い，指揮していました。

海輪会長が当時，リーダーとして心掛けられたことは何だったでしょうか?

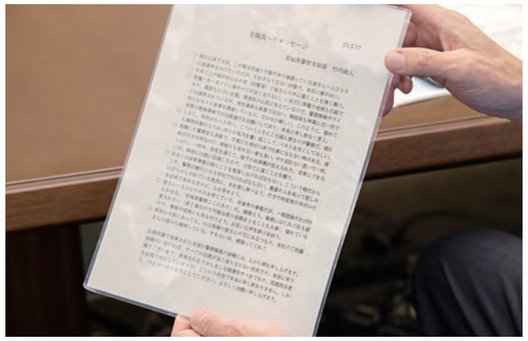
海輪会長　私は新潟支店長の時に中越沖地震を経験し，初めて現場の災害対策本部を指揮したのですが，その時の教訓を踏まえ，一連の復旧プロセスで**特に意識したことは4点**ありました。1点目は，**「組織としての総合力を引き出す」**こと。2点目は，**社内は「現場最優先」，社外は「地域とお客さま最優先」のスタンスで判断**すること。3点目は，**「基本的な方向性と価値観については，自分の言葉でシンプルに伝える」**こと。周囲が解釈に迷うような発言はしないよう心掛けたつもりです。最後は，**「健康を維持して，無理はしない」**こと。体調が悪い時には，判断を誤ることもありますので，常に健康を維持して，万全の判断ができるよう意識していました。

また，震災後は原子力や料金値上げなど，電力業界や当社に対して社会的な批判もあり，厳しい状況でしたが，**「最終責任は社長」という心構えと覚悟**を持とうと意識していました。私は事務屋ですが，「原子力であろうが，送配電であろうが，社長が責任を持つ。逃げられるものではない」という気持ちでした。

過酷な状況で奮闘する社員･職員にはどのようなメッセージを発信しましたか

海輪会長　私は震災から13日後，本部長としての仕事が少し落ち着いたタイミングで，全社員向けのメッセージを発信しました。その中では**「今は辛く困難な時期だが，『朝の来ない夜はない』。東北の復興は電力から。全社の総合力を結集し地域の復興に貢献していこう」**と訴えました。

竹内顧問　私も3月17日に全職員にメッセージを出しました。私どものオペレーションは，泥と水の世界だったため，現場で作業に従事している職員にもメッセージが伝わるよう，ラミネート加工にして，**「劣悪な勤務環境で任務遂行をお願いしており，本当に申し訳なく思う。しかし，県民はもっと辛い。こういう時にこそ踏ん張るのが警察だ。なんとか気力を奮い起こして，ベストを尽くしてほしい」**というメッセージを発信しました。その後も職員に対しては，まさに会長の「朝の来ない夜はない」と同じ発想だったのかもしれないですが，**「苦難は長丁場続く。でも，この苦難は乗り越えようとしなくてもいい。ただ，必ず過ぎ去るので，その間は，毎日，その日やれることをしっかりやろう」**という趣旨のメッセージを出し続けました。本心を言うと，職員向けというよりも，結局，自分自身に言い聞かせていたのかもしれないと今では思います。



過酷な現場で任務を遂行する職員のためにラミネート加工したメッセージ

震災当時のリーダーとしての苦悩･葛藤について教えてください

竹内顧問　震災から約1カ月後の4月7日夜に大きな余震がありました。私は発災後2週間くらい本部に泊まり込んでいましたが，その頃は，官舎で寝泊りしていました。そろそろ寝ようかという時に，あの揺れが来て，真っ暗になり，その瞬間は，また津波が来るのではないかと思いました。当然，着替えて，2～300m先の県警本部へ歩いて向かったのですが，その間，真っ暗な中，一人で天に向かって「馬鹿野郎! 馬鹿野郎!」と叫びながら出勤した記憶があります。

海輪会長　私も4月7日の余震はびっくりすると同時に，再びの大停電に理不尽さを感じました。自宅で就寝直後でしたが，一刻も早く出社しなければと，信号が消えている道を，自ら車を運転して会社まで向かいました。私も運転しながら「なんでだ，なんでだ」と言い続けましたので，竹内顧問の気持ちにとても共感するところです。後になって考えると，全体を指揮する社長の立場では危険な行為だったと反省したのですが，それくらい早く状況を把握し，対処しなければならないという思いがありました。

震災当時は激務で，次々と悪い情報が入る都度，気持ちが折れそうになりましたが，結局，**私を支えてくれたのは，社員の皆さんの力**でした。災害が起こった時に，当社が一致団結する力はあらためてすごいと感じ，災害が大きければ大きいほど，その力がまた強くなる。グループ企業も含め，社員が同じ使命感でつながって，みんなが被災地の事業所を助けようと，心が一つになりました。また，被災地に激励で訪ねると，事業所自体が被災し，変電所や仮設の事務所に住み込むなど，非常に劣悪な環境の中でも，笑顔で頑張っている社員の姿が印象的で，私自身もっと頑張って，その努力に報いなければ，と，力をもらいました。



旧大船渡技術センターの建物に仮の大船渡営業所を設置し，懸命に業務を行っている様子（震災当時）

震災からの教訓

震災から得た教訓について教えてください

海輪会長　何といっても「自然災害に対する備え」です。当社はこれまで幾多の自然災害との闘いが創立以来の歴史となっており，**災害対応は当社危機管理の「一丁目1番地」**と考えています。これは先輩方から脈々と受け継がれてきたDNAですが，大震災で「備え」の重要性を再確認できたものと思います。

また，震災からの教訓では，原子力災害に触れないわけにはいきません。私たちが**福島第一原子力発電所の事故から学んだことは，「想定外に備える」ことと，「安全について謙虚さを失わない」こと**です。今，当社は女川･東通で原子力の安全対策を実施していますが，新たな規制基準をクリアすることだけを目標とするのではなく，**地域住民の暮らしを守るという視点で安全レベルを常に高める自主的な取り組みを積み重ねていく**ことが，震災の反省を今後に活かしていくことに結びつきます。

さらに原子力災害は単独で起きるわけではなく，自然災害と複合して起きることを前提に，**原子力部門のみならず，他の部門と連携しながら，総合的に対処する訓練を行うことも一つの教訓**だと思います。

私自身は，過去の経験から，**危機管理に当たって，5つの原則**を心掛けるようにしています。1点目は楽観論に走らず**「最悪の事態に備える」**ことです。2点目は**「大きく構える」**ことです。最悪の事態に備えるためには，上位者への忖度や他部門への遠慮などせずに関係者を広く集めて情報共有することが大切です。3点目はヒト･モノ･カネの**「投入資源を最大限集める」**ことです。4点目は，最悪事態を回避できなかった場合に備え**「次善の策も準備しておく」**ことです。最後に5点目は**「事態収集後，直ちに反省会を開催して次に活かす」**ことです。

以上のような原則を踏まえた上で，想定外事象に対する想像力を働かせて，あらかじめ関係者がどう動けば良いのか，ということをルール化し，決めておくことも有効です。なお，震災以降，こうした取り組みを繰り返し進めてきましたが，コロナ禍で，対面対応が困難となっており，今後，どうするべきかについて，あらためて考える必要があると感じています。

竹内顧問　**警察が震災で得た教訓は4点**あります。1点目は**「広域激甚な災害に対する備えが必要」**ということです。例えば，宮城県沖地震は30年以内で99%の確率で来るといわれていました。今，全国の警察に伝えていることは，確率のある事象は，たとえ数字が低くとも，歴史を紐解くと，いつかは来る。それがいつ来るか分からないのであれば，今準備するしかないということです。南海トラフも首都直下も，あるいは富士山の爆発だって，いつ起きてもおかしくないのです。2点目は，誤報をかなり出してしまったので，**「迅速，正確な情報収集が大事」**ということです。3点目は，殉職者を多数出してしまったため，**「特に避難誘導に当たっては，その場所ごとにタイムリミットを決めて，必ずそこから離脱する」**ということ。最後，4点目が**「市町村との連携」**です。特に，ご遺体の関係では，市町村とのやりとりが相当必要で，当時，対応に苦慮しました。普段から連携をしっかり取って，必要なことは地域防災計画に書き込むことが教訓と感じました。

海輪会長が社外との連携で意識されたことは何ですか?

海輪会長　停電復旧では他電力会社から多数の応援をいただきましたが,その他の局面では,社外との連携を広げるという意識が不十分で,国や自治体との情報共有で止まっていたというのが実態でした。もっと社外と連携した方が,よりスムーズに対応することができたと思っています。その反省も活かし,今は県・市などの自治体をはじめ自衛隊,NEXCO,JR,通信事業者等との連携を深めています。



陸上自衛隊東北方面隊との連携に関する協定締結(2013年4月)

今だから言えるリーダーとしての反省がありましたら教えてください

海輪会長　震災直後,福島第一原子力発電所の状況については,報道による情報だけが頼りでした。そのような中で,国から「電源車を福島第一原子力発電所に向かわせてほしい」と要請が入り,近隣事業所からすぐに向かうように指示しました。しかし,後から考えると,発電所の状況に関してほとんど情報のないところに派遣を命じたことになりました。もっと突っ込んだ情報収集をするべきだったと非常に反省しています。

竹内顧問　発災直後に大津波警報が発令されたことに伴い,多くの職員が避難誘導のために主要な交差点や海岸部に向かいました。住民を避難させようという使命感が強すぎた一方で,大津波の危険性に対する意識が十分ではありませんでした。長く海岸部に留まりすぎて,結果的に14人,殉職させてしまいました。なぜ,どこかの時点で,「海岸部から一斉に撤収せよ」との指示が出せなかったのか,という思いがずっとあります。後悔というか,無念の思いです。職員本人とご遺族に対して,ずっと申し訳ないという気持ちは一生,このままだと思っています。

次の世代へ伝えたいこと

震災から10年目を迎えるに当たって,社員へのメッセージを頂戴したいと思います

海輪会長　震災から10年が経ち,社内の震災経験者が減っている中で,震災以降に入社した社員が全体の4分の1を占めるようになりました。先輩社員は,当時の災害対応・経験を伝え,未来に向けて人材を育成する責務があります。「当時何を経験したのか」,「自分はどうしたのか」,「どんな苦労があり,何を感じたのか」など,貴重な記憶を職場や部門において体験談として次世代に継承してほしいです。**震災未経験者は,「安定供給への使命感」が当社のDNAであることを意識し,先輩の話や記録資料をもとに想像力を働かせて疑似体験し,業務に活かしていく姿勢が必要**です。**また,与えられるだけではなくて,自ら関心を持って,積極的に幅広く聞いて回るような行動を心掛けていただきたい**と思います。

また,**安定供給への使命感について高い志を持っていただきたいです。**昨年,法的分離で,ネットワーク部門が分社しましたが,当社グループとしての安定供給に対する責務は変わりません。震災経験を風化させずに,このDNAを引き継いで,**「会社は分かれても(分社),心は離れない(使命感)」という意識で日々の業務に当たっていただければ**と思います。

竹内顧問　人間というのはバイオリズムがありますし,どれだけ使命感の高い人でも波があり,喉元を過ぎれば熱さを忘れる部分が多少あります。やすきに流れたり,日常の平穏に安住してしまう面が絶対ないとは言い切れません。警察がよく使う格言で,**「治にいて乱を忘れず」**という言葉があります。この出典は,易経の中の孔子の言葉といわれていますが,あの**大規模な災害が明日にも再度襲来するかもしれないという危機意識を,頭と心の片隅に置きながら,日常を過ごす**ことができればさらに素晴らしいと思います。

最後に,当社がこれまで支えられてきた東北・新潟への想いについてお聞かせください

海輪会長　震災からの10年間,当社は設備復旧や節電,電気料金の値上げなどで,地域の皆さまからご協力をいただき,助けられてきました。一方で,**電気事業というのは,地域に根ざしたインフラ産業**です。電気がないと,全ての生活がストップしてしまうので,**事業に対する責任というのは,逆に地域からの期待**であると感じます。当社は創立以来,地域に密着して事業を営んできましたが,**地域の皆さまのご理解や信頼がなくては,当社事業は成り立ちません。**このことは,私自身,震災後の苦しい時期にあらためて強く感じたところです。



昨年,中長期ビジョンで掲げた**スマート社会実現事業というのは,当社の経営理念「地域社会との共栄」に立ち返り,電力供給のみならず,地域の皆さまが必要としているサービスを提供することで地域の活性化,復興につなげていくという考え方が根底にあります。**これから,太陽光発電や蓄電池を活用した事業,あるいはVPP事業なども進めていきますが,**単に収益機会を得るというだけではなく,地域全体の災害対応力を強めるという意味合いもあり,こうした地域の皆さまとのWIN-WINの関係を新たにつくっていければ良い**と考えています。

竹内顧問　私はご縁があって何回か東北勤務をしていたこともあり,勝手に自分は準東北人と自称し,東北から離れた時期も報道などでずっとフォローし続けていました。ハードの復興,例えば道路や防潮堤,高台に移った新しい建物などを見ると,すごい変化に驚いています。ただ,ハード面の変化が大き過ぎると,その分,かえって切なさというか,寂しさを感じてしまいます。だから,住民の皆さまにしてみると,あの大震災前の暮らしの情景というのが全部失われてしまって,あれがどこに行ったのだろうかと。よく報道でも,**ハードの復興は終わったが,心の復興はこれから**だというトーンの指摘がなされています。私はハードが復興しているが故に,寂しい,辛い思いをする。**住民の方々のまさにそういう気持ちに寄り添って,当社ができることについて考えること**ができれば素晴らしいと思います。

対談を終えて

海輪会長　竹内顧問が宮城県警察本部長として,非常に厳しい状況の中で,未曾有の規模の人命を扱う過酷な現場を陣頭指揮し,職員を鼓舞しつつ任務を完遂された強い意志に感銘を受けました。また,こういう危機の時はトップとしての行動や発想が驚くほど似ています。組織の違いを超えて,組織を動かす行動原理や責任・自覚は共通だと思いました。私たちの責務として,**この震災経験を風化させることなく,備えを磨き上げていきたい**と思います。

竹内顧問　震災後,真っ暗な現場を視察する場面が何回かあり,その時にいかに灯りが大事かということを痛感しました。単に暗いと治安が悪くなるとか,人々が不安になるとか,寒くて辛いとか,そういう問題以上に,灯りがあるのとないのとでは,これほどまでに違うんだなと。また,当時,無線中継所の早期復旧をお願いし,警察の情報通信が辛うじて成り立っていたのは,東北電力のおかげでした。本日は,**当時電気の大切さを実感したことを思い出し,当社にいる喜びを再認識**させていただきました。



コーディネーターからのコメント



総務部(防災・危機管理)主任　**加藤 美紀さん**

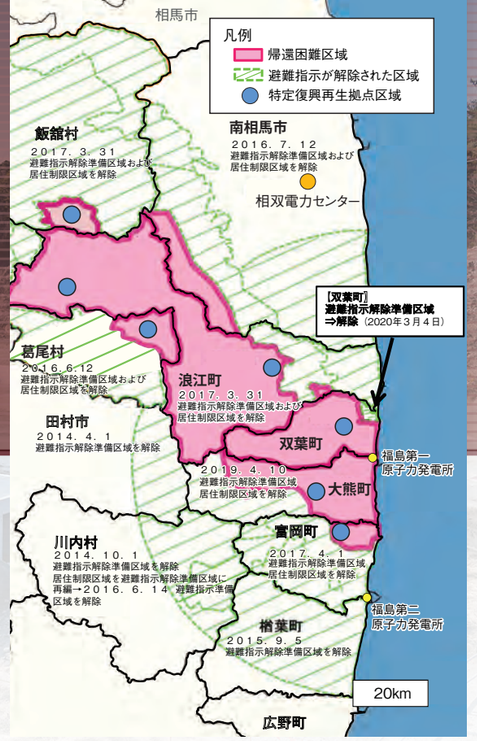
今回の対談は,震災から10年を迎えるタイミングに,当時それぞれの組織のリーダーとして,災害対応されたお二方が,当社にいらっしゃったことから実現できたものです。対談では,10年を経過した今だからこそ明かせる当時の苦悩・葛藤について伺うことができ,貴重な機会となりました。また,危機・災害対応におけるリーダーのマインドは,時が経過し,異なる危機・災害事象においても当てはまる普遍的なものだと思いました。対談を通してあらためて,千年に一度といわれる震災を次世代へ語り継ぎ,備えをブラッシュアップしていくことが私たちの責務であると感じました。

対談の様子はNEWSスクエアのサイトから動画でもご覧いただけます。「H.A.N.D.S.」-「お知らせ(2021年3月12日)」

今なお続く，復旧・復興に向けた取り組み

相双電力センター管内では，東京電力の福島第一原子力発電所事故の影響により避難指示区域が指定され，住民の方々は避難を余儀なくされていましたが，その指定が段階的に解除されてきています。また，将来にわたって居住を制限するとされてきた帰還困難区域内でも，避難指示を解除し居住を可能とする「特定復興再生拠点区域」を定めることが可能となったことから，新しい街づくりが急ピッチで進められています。

震災から10年が経過した今なお，復旧・復興作業に懸命に取り組む社員の皆さんを追いました。



避難指示区域の概念図（2020年3月10日時点）
［経済産業省公表の図を基に作成］

新しい街づくりに貢献　相双電力センター

撤去　街の再生に向けて被災設備の撤去作業を急ぐ

相双電力センター管内の南部に位置する浪江町・大熊町・双葉町・富岡町では，新たな街づくりのために，被災した建物の解体に伴う引込線の撤去作業が進められています。

2020年度は約2,500件の撤去申込があり，福島支社管内の電力センターから応援をいただきながら，日々業務に取り組んでいます。

来年度も同規模程度の全徹申込が想定されますが，今後もチーム福島一丸となり安全かつ適正な作業に努めていきます。


撤去作業の受付状況の確認




引込線の撤去作業

担当者から

配電技術サービス課　太田 光さん



震災当時は浪江サービスセンターに勤務していましたが，昨年10月の異動で7年ぶりに同じ地域を担当することになりました。

当時の被災状況を理解していた自分でしたが，復興がほとんど進んでおらず，解体した廃材置場や除染土壌を運搬する大型トラックの多さに唖然としました。また，自分で担当した配電線設備が跡形もなくなっており，朽ちた家屋と荒れ果てた田畑を目前にしたときには，悔しさが込み上げてきました。

そのような中で，撤去工事を経て，新たな宅地に整備された区画を見ると，相双地域の復興が近づいてきたことを実感するとともに，自分も復興の一役を担っているやりがいと誇りを感じながら，日々の業務に取り組んでいます。

管理　撤去資材を安全かつ効率的に処理

避難指示区域内の撤去作業により発生した資材は，放射線量を測定した上で，線量に応じた庫入れや産廃処理をする必要があります。このうち，帰還困難区域内で発生した撤去資材は，線量が高い可能性があるため，一時的に仮置場に保管します。そして，線量を測定した上で，線量が高い場合は低減作業を行って処理しています。



放射線量の測定作業



放射線量の低減作業（表面の拭き取りや削る作業）

担当者から

配電計画課　高橋 陽介さん



震災当日は，総合研修センターでの研修が終わり，原ノ町駅で帰りの電車の発車を待っている時でした。電車の中でも揺れが尋常でないことを感じ，周囲が混乱していた状況をよく覚えています。その後，同期の配電メンバーで栗原登米営業所まで応援に行きました。配電部門では通常最初の応援隊を第1陣と呼びます。それよりも先駆けて稼働したということで，同期のメンバー内ではチーム名を「0陣」と名付けました。今でも震災の話題が出ると「0陣」で行動したことを思い出します。

現在，被災した地域では除染や解体が進み，新たな街づくりが加速度的に進んでいます。放射線と向き合いながらも，新たな街に電気を届けるという業務を通じて，再び被災地に明かりを灯せていることにやりがいを感じています。

新設　新しい街・産業団地に電気を送る


浪江南産業団地の造成工事。
来年度から段階的に共用が開始される予定

相双地域では，新たな街づくりや産業団地の開発がいたる所で進んでおり，住民の帰還や数多くの企業が進出予定です。

配電計画課では，住宅団地や産業団地の規模や共用開始時期などの情報を基に需要を想定し，設備の構築・増強計画の立案，工事を実施しています。



新しく電柱を建てる位置を調査

担当者から

配電計画課　佐藤 走さん



震災当時は，八戸営業所の新入社員で，次の現場に向けて業務車両で移動をしている際に14時46分を迎えました。激しい揺れを感じながら信号が赤色から消灯した時に同乗者である先輩が発した「終わったな」という言葉は今でも鮮明に覚えています。

現在は，産業団地の造成計画に対する設備の構築・増強工事を担当しています。目まぐるしく進む被災地の復旧・復興に対して遅れをとることなく，お客さまに電気をお届けするために，「感謝」「相手の気持ち」「情報発信」という3つを心掛けて，日々業務に邁進していきたいと思います。

中間貯蔵施設の整備を通して福島の復興に貢献

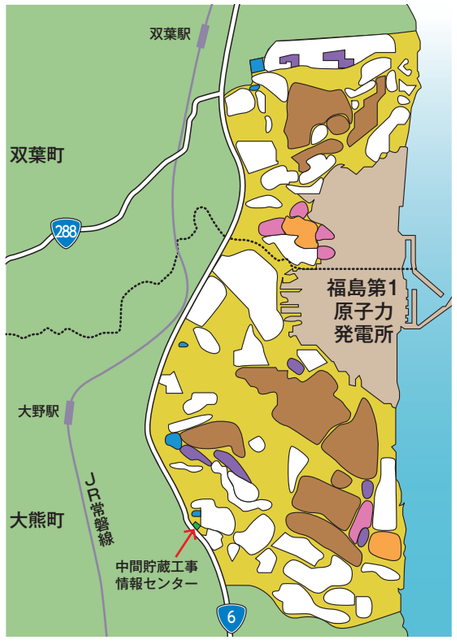
土木建築部（環境省に出向）

福島第一原子力発電所の事故後，福島県内では国と自治体の協力により除染や廃棄物処理の取り組みが進められ，これまでに帰還困難区域を除く全ての地域で除染が完了しました。

現在，発生した除染土壌や廃棄物は福島県内各地の仮置場や除染現場で保管されていますが，最終処分までの間，除染土壌や廃棄物を安全かつ集中的に貯蔵する中間貯蔵施設の整備が大熊町・双葉町にまたがる約1,600haの区域で進められています。

この整備を担う，環境省福島地方環境事務所 中間貯蔵部工務課では，除染土壌や廃棄物の運搬，除染土壌の分別・埋め立て，仮設テント施設建設の他，家屋解体や植栽などの幅広い業務を行っています。

環境省では一刻も早い福島の復興と環境再生を目指し，中間貯蔵施設の整備事業に全力で取り組んでいます。



施設整備イメージ図［環境省 中間貯蔵施設情報サイト掲載の図を基に作成］



仮設テント建設状況

仮設テント内に，受入・分別施設などが設置される



受入・分別施設

中間貯蔵施設内に搬入された除染土壌を土壌・石・木・瓦礫・金属などに分別



土壌貯蔵施設

受入・分別施設で分別された土壌を貯蔵する施設

担当者から

環境省 福島地方環境事務所 中間貯蔵部 工務課
［東北電力 土木建築部（土木建築業務）から出向］
畠山 智之さん



■震災当時の思い出

震災当時は福島技術センター土木課（現:福島発電技術センター土木課）に所属していました。当日はダムゲート取替工事の検査準備をしていたところ，大きな揺れに襲われました。電気，ガス，水道などのライフラインの他，物流も途絶え，一時は食料調達も困難になりました。そのとき思ったのは，生産と物流がかみ合わなければ消費者へ物が届かなくなってしまうということです。それは，当社においても同様であり，お客さまへ電気を届けるという電力供給の難しさと重要性をあらためて感じました。

■現在の業務にかける想い

現在，私は国家公務員として工事の発注業務を担当しています。事務手続きを行うに当たり念頭に置かなければならないことは，透明性，公平性および公正性の確保を常に心掛けなければならないことです。施工に当たっては，あらゆる工法を比較検討し，工事費用を最小限に抑えた施工方法を選定しなければならないため，さまざまな知識が必要とされ，日々勉強しています。

福島県の復興は少しずつながら着実に進んでいます。今回の出向を通じて，私も微力ながら福島県の復興に貢献できればと思いながら日々の業務に取り組んでいます。



書類検査実施状況（手前中央が畠山さん）



東北電力グループ中長期ビジョン

よりそうnext

東北発のスマート社会実現を目指して

2021年度東北電力グループ中期計画の力点を公表

当社は，2月25日の定例社長記者会見にて，「2021年度東北電力グループ中期計画の力点」を公表しました。本力点の概要を紹介します。

事業環境認識

新型コロナウイルスの感染拡大により，**電力需要の減少などの厳しい事業環境に直面する**とともに，「東北電力グループ中長期ビジョン」で認識していた**「デジタル化」「分散化」「脱炭素化」に伴う電力需給構造の変化が加速**。そのため，**「よりそうnext」の実現に向けた取り組みのスピードを一層高め，ポストコロナにおける新たな時代のお客さまの期待に応えるビジネスモデルへと早期に転換**していくことが必要。

事業推進の基本的な考え方

事業環境認識を踏まえ，2021年度は，**「よりそうnext」実現に向けた取り組みの加速**を図るべく，2020年度の力点を維持しつつ，**新たに4つの事業推進の基本的な考え方を掲げた。**

❶徹底した電力販売の強化とコストダウンの深掘りを行いながら，電力供給事業の構造改革のスピードのギアを上げる。
❷安全を最優先に原子力発電所の再稼働へ全力を尽くすとともに，地域の皆さまへの積極的な情報発信と丁寧な理解活動を行う。
❸新会社「東北電力フロンティア株式会社」を中核に，東北電力グループを挙げて，スマート社会実現事業の早期収益化に果敢に挑戦し実現する。
❹「2050年カーボンニュートラル」に向けたあるべき姿の検討を進め，スマート社会実現事業などを通じてお客さまのCO_2排出削減に貢献する。

スマート社会実現事業の早期収益化

スマート社会実現事業を牽引し，お客さま起点の新たなサービスを創出していくため，**「東北電力フロンティア株式会社」を設立する。**（2021年4月設立予定）

同社では，**「電気」と「各種サービス」をパッケージ化したプランを中心に販売**する。具体的には，**次世代のデジタル技術やイノベーションの活用**等を通じて，電気を含むエネルギーマネジメント（例えば「最適な機器制御による省エネ・創エネ・蓄エネ」など）をはじめ，地域に住む方々の快適・安全・安心な暮らしにつながる**各種サービスを取りそろえ，これらを組み合わせて提供**する。

この一例となる**太陽光・蓄電池サービスの提供**に向け，**「東北電力ソーラーｅチャージ株式会社」を設立する。**（2021年4月設立予定）

東北電力フロンティア株式会社	
設立日	2021年4月予定 （事業開始:2021年度下期中）
取締役社長	岡信 愼一
設立時資本	50億円
株主	東北電力株式会社100%

脱炭素化への取り組み

- **バリューチェーン全体でこれに資する取り組みを積極的に行う**とともに，**スマート社会を実現することにより東北・新潟地域全体のCO_2排出削減に貢献**する。
- **東北電力グループとして「2050年カーボンニュートラル」**を目指し，積極的に挑戦する。重点分野や具体策については，早期に公表し，その展開を図る。

2021年度東北電力グループ中期計画の力点詳細は「H.A.N.D.S.」－「経営情報」－「東北電力グループ中長期ビジョン」からご覧ください

役員人事を決定

東北電力および東北電力ネットワークは，2月25日に開催した取締役会において4月1日付の役員人事を決定するとともに，東北電力は6月株主総会日付の役員人事を内定し，同日の定例社長記者会見で発表しました。

東北電力株式会社

東北電力株式会社の6月株主総会日付の取締役人事については，正式には2021年6月開催予定の第97回定時株主総会および株主総会後の取締役会において決定する予定です。

取　締　役　【2021年4月1日付】

役　職	氏　名	事務委嘱	前任（現役職）
取締役会長(※1)	増子　次郎(※2)		取締役副社長 業務全般，原子力本部長， QMS管理責任者
取締役社長	樋口康二郎(※2)		取締役社長
取締役副社長	岡信　慎一(※2)	コーポレート担当， スマート社会事業 推進担当(※3)	取締役副社長 業務全般，コーポレート担当， CSR担当，IR担当， スマート社会事業推進担当
取締役副社長	山本　俊二(※2)	コンプライアンス推進担当， CSR担当，IR担当， ビジネスサポート本部長	取締役副社長 業務全般， コンプライアンス推進担当， ビジネスサポート本部長
取締役副社長 ［新任］	阿部　俊徳(※2)	発電・販売カンパニー長	取締役 発電・販売カンパニー長
取締役 相談役(※1)	海輪　誠		取締役会長
取締役（社外）	近藤　史朗		取締役

役　職	氏　名	事務委嘱	前任（現役職）
取締役（社外）	上條　努		取締役
取締役（社外）	川野邊　修		取締役
取締役 監査等委員	加藤　公樹		取締役監査等委員
取締役（社外） 監査等委員	馬場　千晴		取締役監査等委員
取締役（社外） 監査等委員	宮原　育子		取締役監査等委員
取締役（社外） 監査等委員	小林　一生		取締役監査等委員

※1:2021年1月27日開催の取締役会で決定し，公表済み
※2:代表取締役
※3:東北電力フロンティア株式会社 取締役社長を兼任予定

取　締　役　【2021年6月株主総会日付】

役　職	氏　名	事務委嘱	前任（4月1日以降）
取締役会長	増子　次郎(※1)		取締役会長
取締役社長	樋口康二郎(※1)		取締役社長
取締役副社長	岡信　慎一(※1)	コーポレート担当， スマート社会事業 推進担当(※2)	取締役副社長 コーポレート担当，スマート社会事業推進担当(※2)
取締役副社長	山本　俊二(※1)	コンプライアンス推進担当， CSR担当，IR担当， ビジネスサポート本部長	取締役副社長 コンプライアンス推進担当， CSR担当，IR担当， ビジネスサポート本部長
取締役副社長	阿部　俊徳(※1)	発電・販売カンパニー長	取締役副社長 発電・販売カンパニー長
取締役 ［新任］	加藤　功	原子力本部長， QMS管理責任者	常務執行役員 原子力本部長， QMS管理責任者
取締役 ［新任］	石山　一弘	コーポレート担当， グループ戦略部門長	常務執行役員 コーポレート担当， グループ戦略部門長
取締役 ［新任］	髙野　広充	原子力本部長代理， 発電・販売カンパニー副カンパニー長	常務執行役員 原子力本部長代理，発電・販売カンパニー副カンパニー長
取締役（社外）	近藤　史朗		取締役

役　職	氏　名	事務委嘱	前任（4月1日以降）
取締役（社外）	上條　努		取締役
取締役（社外）	川野邊　修		取締役
取締役（社外） ［新任］	永井　幹人		—
取締役 監査等委員	加藤　公樹		取締役監査等委員
取締役（社外） 監査等委員	宮原　育子		取締役監査等委員
取締役（社外） 監査等委員	小林　一生		取締役監査等委員
取締役（社外） 監査等委員 ［新任］	井手　明子		—

※1:代表取締役
※2:東北電力フロンティア株式会社 取締役社長を兼任予定

役付執行役員　【2021年4月1日付】

役　職	氏　名	事務委嘱	現役職・事務委嘱
社長 執行役員	樋口康二郎		社長執行役員
副社長 執行役員	岡信　慎一	コーポレート担当， スマート社会事業推進担当(※)	副社長執行役員 業務全般，コーポレート担当， CSR担当，IR担当， スマート社会事業推進担当
副社長 執行役員	山本　俊二	コンプライアンス推進担当， CSR担当，IR担当， ビジネスサポート本部長	副社長執行役員 業務全般， コンプライアンス推進担当， ビジネスサポート本部長
副社長 執行役員 ［新任］	阿部　俊徳	発電・販売カンパニー長	常務執行役員 発電・販売カンパニー長
常務執行役員	加藤　功	原子力本部長， QMS管理責任者	常務執行役員 原子力本部副本部長
常務執行役員	大野　貞彦	発電・販売カンパニー 副カンパニー長， 原子力本部副本部長	常務執行役員 発電・販売カンパニー副カンパニー長， 原子力本部副本部長
常務執行役員	砂子田　智	ビジネスサポート本部副本部長，原子力本部副本部長	常務執行役員 ビジネスサポート本部副本部長，原子力本部副本部長

役　職	氏　名	事務委嘱	現役職・事務委嘱
常務執行役員	石山　一弘	コーポレート担当， グループ戦略部門長	常務執行役員 コーポレート担当，グループ戦略部門長
常務執行役員	髙野　広充	原子力本部長代理， 発電・販売カンパニー副カンパニー長	常務執行役員 発電・販売カンパニー副カンパニー長，原子力本部副本部長
常務執行役員 ［新任］	金澤　定男	原子力本部副本部長， 原子力本部原子力部長	執行役員 原子力本部原子力部長
常務執行役員 ［新任］	佐々木裕司	コーポレート担当，原子力本部副本部長，支店統轄	上席執行役員 東京支社長
常務執行役員 ［新任］	河田　伸	発電・販売カンパニー 副カンパニー長	執行役員 発電・販売カンパニー法人営業部長

※:東北電力フロンティア株式会社 取締役社長を兼任予定

上席執行役員待遇　【2021年4月1日付】

氏　名	事務委嘱	現役職
新田　盛久 ［新任］	東北電力フロンティア株式会社	執行役員 秋田支店長

氏　名	事務委嘱	現役職
土方　薫 ［新任］	東北電力エナジートレーディング株式会社	執行役員待遇 東北電力エナジートレーディング株式会社

執　行　役　員　【2021年4月1日付】

氏　名	事務委嘱	現役職
小笠原孝史 ［新任］	秋田支店長	東北電力ネットワーク株式会社 執行役員 総務部長

氏　名	事務委嘱	現役職
佐々木秀明 ［新任］	東京支社長	グループ戦略部門 経営企画ユニット部長

本店室部長の異動　【2021年4月1日付】

氏　名	発　令	現役職
加藤　卓也	考査室長	グループ戦略部門環境 ユニット部長

氏　名	発　令	現役職
菅野　裕	発電・販売カンパニー法人営業部長	新潟支店副支店長・ お客さま本部長

役付執行役員の本店室部等分担　【2021年4月1日付】

役　職	氏　名	新担当	現担当
社長執行役員	樋口康二郎	—	—
副社長執行役員	岡信　慎一	事業創出部門	事業創出部門
副社長執行役員	山本　俊二	考査室，原子力考査室， 総務部，経理部	考査室，原子力考査室， 総務部，経理部
副社長執行役員 ［新任］	阿部　俊徳	販売推進部，法人営業部， 生活提案部，ガス事業部	販売推進部，法人営業部，生活提案部， ガス事業部
常務執行役員	加藤　功	安全保安管理室	原子力部， 原子力品質保証室
常務執行役員	大野　貞彦	燃料部，水力部，火力部， 再生可能エネルギー事業部	燃料部，火力部，再生可能エネルギー事業部

役　職	氏　名	新担当	現担当
常務執行役員	砂子田　智	秘書室，ビジネスサポート企画室，人財部，資材部，情報通信部	秘書室，ビジネスサポート企画室，人財部，資材部，情報通信部
常務執行役員	石山　一弘	グループ戦略部門	グループ戦略部門
常務執行役員	髙野　広充	土木建築部，電源立地部	水力部，土木建築部，電源立地部
常務執行役員 ［新任］	金澤　定男	原子力部，原子力品質保証室	—
常務執行役員 ［新任］	佐々木裕司	ソーシャルコミュニケーション部門，研究開発センター	—
常務執行役員 ［新任］	河田　伸	事業戦略部	—

退任予定者

取締役（2021年4月1日付）

役　職	氏　名	就任先予定
取締役	八代　浩久	東北インフォメーション・システムズ株式会社 取締役社長
取締役	伊東　裕彦	東北送配電サービス株式会社 取締役社長

※各社の手続きを経て正式に就任することとなります

執行役員（2021年4月1日付）
（常務執行役員および上席執行役員への就任予定者は除く）

役　職	氏　名	就任先予定
執行役員	齋藤　恭一	東北インテリジェント通信株式会社 取締役社長

※同社の手続きを経て正式に就任することとなります

役付執行役員（2021年4月1日付）

役　職	氏　名	就任先予定
常務執行役員	八代　浩久	東北インフォメーション・システムズ株式会社 取締役社長
常務執行役員	伊東　裕彦	東北送配電サービス株式会社 取締役社長

※各社の手続きを経て正式に就任することとなります

取締役（2021年6月株主総会日付）

役　職	氏　名	就任先予定
取締役相談役	海輪　誠	相談役
取締役監査等委員	馬場　千晴	

東北電力ネットワーク株式会社

東北電力ネットワーク株式会社の取締役・監査役については，正式には2021年4月1日開催予定の同社臨時株主総会および同社取締役会において決定する予定です。

取締役・監査役

【2021年4月1日付】

役　職	氏　名	事務委嘱［分担］	前任（現役職）
取締役社長	坂本　光弘(※1)		取締役社長
取締役副社長	松岡　利彦(※1)	法令遵守責任者，コンプライアンス推進担当，CSR担当［企画部，人財部，総務部，ネットワークサービス部］	取締役副社長
取締役副社長	戸田　靖久(※1)	情報管理責任者［考査室，安全・品質管理室，土木建築部，情報通信部，用地部］	取締役副社長
常務取締役	山田　利之	［電力システム部，送変電建設センター］	常務取締役

役　職	氏　名	事務委嘱［分担］	前任（現役職）
常務取締役［新任］	泉田　融	支社統轄［配電部，総合研修センター］	東北送配電サービス株式会社 取締役社長
取締役［役職変更］	春浪　隆夫		常務取締役
監査役	工藤　和典		監査役
監査役	江波　恒夫(※2)		監査役

※1:代表取締役
※2:東北電力株式会社 執行役員待遇監査等特命役員を兼任

本社室部長の異動

【2021年4月1日付】

氏　名	発　令	現　役　職
丸山　丈	総務部長	人財部長

氏　名	発　令	現　役　職
阿部　孝昭	人財部長	東北電力株式会社 ビジネスサポート本部人財部副部長

退任予定者

執行役員（2021年4月1日付）

役　職	氏　名	就任先予定
執行役員	小笠原孝史	東北電力株式会社 執行役員秋田支店長

※同社の手続きを経て正式に就任することとなります

働き方改革
「みな、おす、ちから。」

\やってみた・やってみよう/

東北電力テレワーク

「テレワーク」というと，まずは「在宅勤務」が思い浮かぶかもしれません。
新型コロナウイルス感染症流行下では多くの企業でテレワークが採用され，人が少なくなったオフィスがニュースなどでも報じられているところです。
一方で，在宅勤務のみをテレワークとして捉えた場合，当社の事業特性上，お客さまへの丁寧な対応や設備への即時対応など，本当にやらなければならない仕事の生産性が下がってしまうことになりかねません。
そこで，当社では，社内外場所を問わず仕事ができ，その場で用件が完結する無駄のない働き方を「東北電力テレワーク」として幅広に捉えて進めていくこととしています。**オンライン会議，直行直帰，在宅勤務，サテライトオフィス活用などの多種多様なテレワーク・スタイルの展開によりデジタル化と生産性向上に取り組み，中長期ビジョン“よりそうnext”の実現を目指すとともに，柔軟な働き方によりワーク・ライフ・バランスの実現にもつなげていく**こととしています。





自己変革力養成研修 受講生



テザリングスマホ試行活用中の
宮城支社三本木お客さまサービス統括リーダー

千歳寮から現場へ直行する山形電力センター所員

仙台電力センター（駅前）のサテライトオフィスで勤務するNW土木建築部員

2021年4月 マイカーによる直行直帰が選択できるように!

2020年4月から導入された社有車による直行直帰に加え，2021年4月からマイカーによる用務箇所への直行直帰が導入されます。
これにより，移動時間が短縮され労働時間の削減と効率的な業務運営が可能となります。



2022年度以降 次期WING端末とスマートフォンを全従業員に配備!

全従業員が「テレワーク」を選択肢として活用できるよう，環境・ルール整備を推進しており，2022年度以降，次期WING端末とスマートフォンを配備予定です。社内外どこでも仕事が可能となり，その場で用件が完結する無駄のない働き方が実現します。
なお，現在，一部事業所で社給スマートフォンを試行検証中です。
これにより得られた知見と技術を本格配備に活かしていきます。

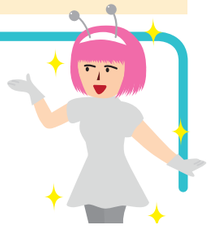


次期WING端末＆スマホ 2022年度配備 Coming soon!

働き方改革推進委員会事務局より



デジタル・オンラインを活用した働き方では「移動時間が省力化できる」，「会議室がなくとも打ち合わせ可能」，そして「オンラインコミュニケーションならではの親近感が芽生える」などさまざまなメリットがあります。
“デジタルネイティブ”でもある新入社員を迎える春! まずは社内でのオンラインミーティングなどから一歩踏み出してみましょう。さまざまな環境整備も力強く進めていきます!



I tried it, let's try it Telework

特集Ⅱ
Feature



中長期ビジョン「よりそうnext」の実現に向けて

阿部発電・販売カンパニー長インタビュー

中長期ビジョン「よりそうnext」(以下, よりそうnext)では, 基盤事業である「電力供給事業」において, 「発電・卸売」「送配電」が各々の事業効率を最大限に高め, 安全確保を大前提に安定供給, 経済性, 環境性の同時達成を図りながら,お届けする電気の価値の最大化を目指し,スマート社会の実現にも貢献することとしています。

スマート社会実現に向けた取り組み, 電力小売全面自由化の中での営業状況など, 発電・販売カンパニー(以下, 発販カンパニー)における, よりそうnext実現に向けた取り組みについて, 阿部発電・販売カンパニー長にお話を伺いました。

Q 発販カンパニーのよりそうnext実現に向けた取り組みについて教えてください。

A よりそうnextのキーワードの一つは**「両利きの経営」**です。両利きの経営とは,「企業の活動は『既存事業の深掘り』(右手)と,『新たな事業機会の探索』(左手)の二つに大きく分類できる。『既存事業の深掘り』だけでは企業の成長は永続できず, どんな市場もいずれ飽和点に達し, そこから刈り取れる利益にはおのずと限界がある。したがって,『新たな事業機会の探索』が必要となる」という理論です。

当社では**「既存事業の深掘り」(右手)に当たるのが発電・卸売事業**であり, 今後も基盤事業として, 競争力の源泉である燃料調達から発電, 卸売までのバリューチェーンの最適化をさらに深化させます。また, 2050年のカーボンニュートラルに向けた取り組みを加速させる必要があります。昨年7月には再生可能エネルギー事業部を発販カンパニー内に組み込み, 火力・水力・原子力に加えて, 風力・太陽光などの再生可能エネルギーを主力電源と位置付けました。現在建設を進めている上越火力発電所では, 次世代高効率ガスタービンを導入し, 高い経済性と環境負荷低減の両立を図ることとしています。

Q もう一つの「新たな事業機会の探索」への取り組みについて教えてください。

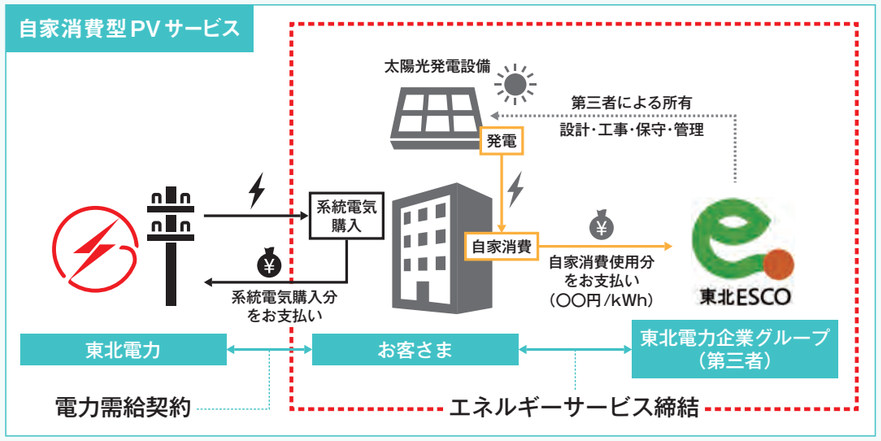
A 一方で, **発電・卸売事業だけでは今後持続的な成長は難しい**と考えています。**「新たな事業機会の探索」(左手)に当たるのが新ビジョンに掲げるスマート社会実現事業**です。発販カンパニーではエネルギーソリューションサービス, スマートライフ電化提案やお客さまの暮らしをサポートするサービスなど, 各種サービスについて本格的な検討を進めています。

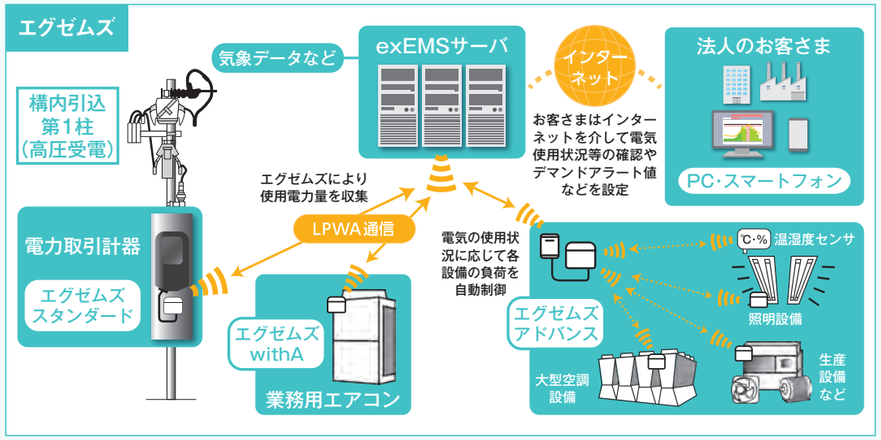
法人向けには, お客さまの環境志向を踏まえ, 再エネ100%の電気料金プランや自家消費型PVサービスの提供, さらには当社独自のエネルギーソリューションサービス「エグゼムズ」の拡充・開発を進めています。

また, 家庭向けには, 子どもの居場所確認サービス「よりそうここっち」や生活アシストサービス「よりそうBOCCO」など, くらしのトータルサービス「より、そう、ちから。+ONe」を展開しています。



よりそうここっち





Q 発販カンパニーが発足して間もなく丸3年となりますが, カンパニー発足の意義について教えてください。

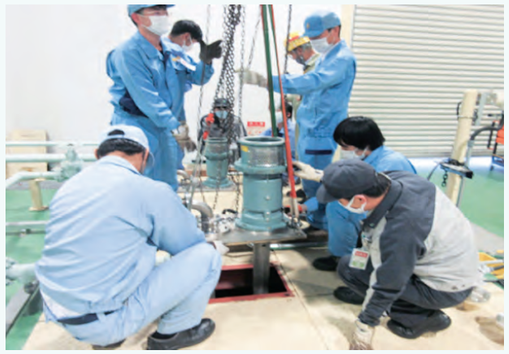
A **発販カンパニーはビールや自動車と同じメーカーだと思っています。**国内外から原料(石炭・LNG・水など)を調達し, それを工場(発電所)で製品化し, お客さまのご要望に合わせた商品(電気のメニュー)としてお届けする。価格, 品質, 納期, どれも高い水準が求められます。私たち発販カンパニー約3,000人は, お客さまに商品をお届けするところまでが私たちの仕事(責任)です。これからもお客さまに当社を選んでいただけるようもっともっと自分の仕事に磨きをかける, といった意識を全員が持つこと, こうした考えをカンパニー内に浸透させ, より価値の高い電気と魅力あるサービスをお客さまにお届けすることがカンパニー発足の意義だと考えています。

Q この3年間で得られた成果についてはどう思われますか。

A 発足して3年になりますが，多くの難局がありました。一番は地震や台風などの自然災害ですが，最近では今年2月の福島県沖地震により原町火力や仙台火力で大きな被害を受けました。一方，発電部門では，FIT制度を受けた太陽光発電や風力発電の大量導入により，当社火力発電所の設備利用率は低下し，また，卸電力取引市場の価格低下を受けて，当社火力の競争力は大変厳しい状況にあります。販売面では新電力の攻勢によりお客さまの離脱が増加傾向にある中，新型コロナウイルスによる需要の減少が追い打ちをかけています。

これまでにない変化の激しい3年間でしたが，発販カンパニー内の11の部門は各部門の苦境を他人事ではなく，同じカンパニーの自分事として捉え，部門の壁を越えた取り組みにより，課題を克服してきました。

具体的に言うと，事業戦略・燃料・火力・販売が一体となった需給最適化機能が強化され，利益最大化に向けて市場の変化に機動的に対応できるようになりました。また，火力部門では，大口のお客さまの技術系社員を火力技術訓練センターに受け入れて感謝されましたし，定期検査の工事業者の皆さんが泊まるホテルの離脱奪還にも尽力してもらいました。水力部門では，CO_2排出量をゼロにする電気料金オプションプラン「ecoでんきプレミアム」のお客さまにダムカードを進呈したり，水力発電所への見学者受け入れを行ってもらっています。今年は創立70周年記念キャンペーンを実施しますが，発電・販売一体となってさらなる収益拡大に取り組んでいきます。


お客さまの技術系社員の研修受け入れ

Q 発販カンパニーにおける安全の確保に向けた想いについてお聞かせください

A 昨年8月に水力部門，9月に火力部門で，協力企業の方が労働災害で亡くなられました。第一報が届いたとき，ご本人やご家族のことを思うと，大変申し訳ない気持ちでいっぱいでした。

30数年前になりますが，ある管理職の方から言われた「労災で死亡した社員の奥さんから通夜の席で，『会社には優秀な代わりの人はいっぱいいるでしょうけど，私たちにはお父さんの代わりはいません』と言われたよ」との言葉が忘れられません。**安全は誰のためか**，原点をしっかり胸に刻んで，発販カンパニー一丸となって安全対策のさらなる向上に努めていきます。


工事会社と一体となった安全の取り組み

Q お客さまニーズの変化をどう把握していきますか。

A 5年前の電力小売全面自由化により，電力の小売をするいわゆる“新電力”が全国で700社以上も誕生し，当社管内にも100社以上が進出してきました。こうした新電力は，基本料金3カ月無料といった料金プランをはじめ，携帯電話とのセット販売，デジタルマーケティングや代理店の活用など，従来の電気小売にはない営業手法を武器に，私たちが想定した以上にお客さまの心をつかんでいます。

私たちはこうした新電力の手法を謙虚に学ぶとともに，第一線でのお客さまとのリアルな接点や，最新のWEBを使ったマーケティング手法などにより，お客さまの多様なご要望を，さらにはお客さま自身がまだ気付いていない心のニーズをつかんでいきたいと思っています。待っているのではなく自分たちから動いて，お客さまから**「そんなことも電力会社でできるのか」と言われるサービスを提供**するのが，私たちの目標です。

Q そうした中にあって，4月に発足する「東北電力フロンティア」と「東北電力ソーラーｅチャージ」について教えてください。

A この二つの会社は，先ほどお話しした両利きの経営の「新たな事業機会の探索」から生まれた会社です。事業の詳細は今後公表となりますが，発販カンパニーはこの両社と一体となって，魅力ある料金プランとサービスを開発・提供していきます。

支店や営業所など**第一線の皆さんから寄せられた数多くのアイデアやお客さまのご要望，そしてもう一つ言えば，お客さまからのクレームについても参考にさせていただきたい**と思っています。**お客さま起点の考えをより徹底し，「お客さまの期待を超えるサービスの提供」にスピード感を持って挑戦していきます。**



第一線事業所を含めた全社で「お客さま起点」のサービスを探索していく



Q 今後「東北電力グループの強み」を活かし，どのような発販カンパニーを目指していきますか。

A 私は，よりそうnextにも掲げているとおり，電力のプロフェッショナルであることと，70年かけて培ってきた地域との絆が当社の強みだと思っています。ただし，これらの強みは未来永劫続く保証はありません。多様化するお客さまニーズを的確に捉え，誠実に対応するとともに，電力やDX（デジタルトランスフォーメーション）の技術や知識により一層磨きをかけていかなければなりません。**地域との絆という言葉に甘えていては新電力に負けてしまいます**。私たちは，今まで以上にお客さまや地域によりそい，引き続き東北における電力供給事業とスマート社会実現事業の両方でメインプレイヤーであり続けたいと思っています。

Q 最後に社員へのメッセージをお願いします。

A 今年1月4日の樋口社長の新年メッセージ「さらなる飛躍へ挑戦！挑戦！挑戦！」では，社長の強い思いが伝わってきました。私の理解では，最初の「挑戦」ではまだまだこれまでの延長線上の努力にとどまる，2番目の「挑戦」では一歩大きく踏み出すが，いろいろな制約や新電力との競争の中で天井にぶつかる，3番目の「挑戦」で初めて，その天井を打ち破って新たな地平線が見えてくる。そこまで頑張ろう，ということだと思っています。

皆さん，よりそうnextの実現に向け，ぜひ一緒に「挑戦！ 挑戦！ 挑戦！」の一年にしましょう!

Close Up（クローズアップ）
東北電力人財部
東北電力NW人財部

第5回「T-Master」認定証授与式を開催



2月26日に第5回「T-Master」認定証授与式を本店・本社と各事業所をテレビ会議でつないで開催しました。認定者21人に対し，樋口社長および坂本社長から激励のメッセージを発信するとともに，代表者一人へ認定証と報奨金が授与され，各事業所においても，各事業所長より認定者一人ひとりに授与されました。

第5回 T-Master 認定者一覧

東北電力


女川原子力発電所
環境・燃料部（放射線管理）主任
南川 啓一 さん


東通原子力発電所
放射線管理課主任
田中 聡 さん


会津若松支社会津ダム管理センター
阿賀野川ダム管理所副長
物江 浩司 さん


会津若松支社会津発電技術センター
水力電気課
米谷 亮太郎 さん


能代火力発電所
（発電）発電主任
保坂 健 さん


新仙台火力発電所
（総務）安全主査
川又 千浩 さん


女川原子力発電所
土木建築部（土木）主任
渡辺 健 さん

東北電力ネットワーク


電力システム部中央給電指令所
青森系統給電指令所指令主査※1
布袋屋 正樹 さん


宮城制御所
制御主査
木村 将克 さん


佐渡電力センター
発変電課副長
中島 秀樹 さん


秋田電力センター
変電課変電主査
池田 宏樹 さん


郡山電力センター
送電課送電主査
大石 仁志 さん


総合研修センター
主任講師（送電）※2
加藤 哲也 さん


三沢電力センター
配電課配電技術長
相馬 祥平 さん


二戸電力センター
配電課配電技術長
小山 健彦 さん


本荘電力センター
配電課
佐藤 尚 さん


白石電力センター
配電技術サービス課配電技術長
佐藤 隆浩 さん


鶴岡電力センター
配電課副長※3
板垣 隆文 さん


福島電力センター
配電テクノセンター担当副長
佐々木 勝章 さん


新潟電力センター
配電テクノセンター担当副長※4
佐藤 智一 さん


青森支社
通信センター（計画）
佐々木 恵喜 さん

※1 現:秋田制御所制御主査　※2 現:長岡電力センター送電課副長　※3 現:酒田電力センター配電技術サービス課副長　※4 現:十日町電力センター配電課副長

T-Master制度ってなんだろう



人財部（人事計画）
石井 晋太郎 主任

「T-Master」とは，東北電力および東北電力ネットワークのマスター，いわば**「技術の匠」**であり，今回の認定者の方々は，その5代目となります。

2年に1回，20人程度を認定し，認定者には，技術・技能の継承および業務品質の向上に向けた取り組みを推進する役割が付与されます。若手社員の自己啓発意欲の喚起やモチベーションの向上，業務品質向上の取り組みを活性化することなどに取り組んでいただきます。

認定者はT-Master
ワッペンを縫付した
専用作業服を着用
していますので
注目してください!



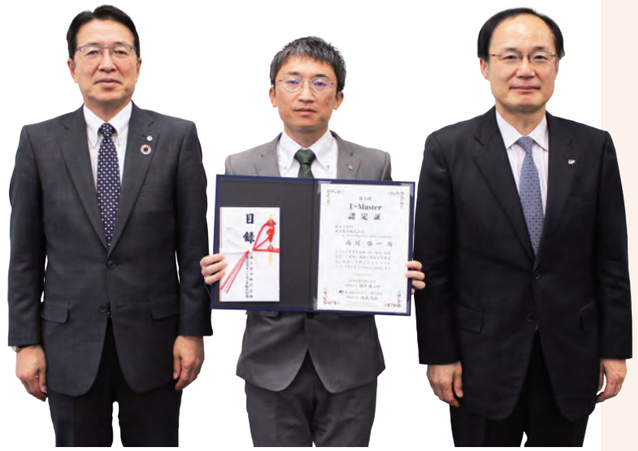
認定者の声

女川原子力発電所 環境・燃料部　**南川 啓一** さん（写真中央）

私は，1996年に女川原子力発電所に入社以来24年にわたり，電力の安全・安定供給を支えているとの自負を持って原子力発電所の水質管理と放射性廃棄物管理に取り組んできました。

このたび，こうした取り組みを評価していただき，大変光栄です。「T-Master」の名に恥じぬよう，今後も引き続き自己研鑽を重ねるとともに，私たちの持てる技術・技能や，使命感と誇りを，東北電力グループの遺伝子として次世代を担う若手社員へと確実に継承し，電気事業を支える人材の育成に向けて微力ながら尽力したいと思います。


式では認定者を代表し謝辞を述べた



「T-Master」認定証授与式での社長からのお祝いの言葉

樋口社長メッセージ

「東北電力グループ中長期ビジョン」における「2030年代のありたい姿」を目指すに当たっては，「変えるべきもの」があるのはもちろんですが，同様に「守るべきもの」も重要です。「T-Master」に選ばれた皆さんはこの両者を兼ね備えており，皆さんがプロ意識を持って，「守るべき」技術・技能をしっかりと継承し，業務に取り組まれてきたこと。そして同時に，現状に甘んじることなく「変えるべき」技術変革にも，常に向上心を持って自己研鑽に励んでこられたこと。これらを日々の業務で体現された結果，今回の認定につながったものと考えています。

こうした姿勢は，後に続く若手社員のお手本になるものです。これからも率先して，会社と自分自身の変革に挑戦していく姿勢を示していってください。


認定者を激励する樋口社長

坂本社長メッセージ


安全の徹底を提唱する坂本社長

皆さんは分社後新体制になってから初めて認定される「T-Master」となりますが，東北電力と東北電力ネットワークの最大の使命は，電力の安定供給であることに変わりはなく，その使命感こそが礎であり，私たちのDNAです。皆さん一人ひとりの技術・技能が，地域の皆さまの安心・安全と生活を支えていることを誇りに思ってください。

また，皆さんには「東北電力グループ安全・保安方針」に込められた思いを，日常の具体的な行動や積極的なコミュニケーションを通じ，体現していただき，職場全体の安全や，業務品質に対する意識の向上につなげていただくことを期待しています。

BS style
実践しよう! B+3S

BS Collection 2020



ビジネスサポート本部（以下，BS本部）では，本部内各室部それぞれで行われている効率化･生産性向上の取り組みや成果，誇れることについて，本部内で共有することを目的として，2021年3月3日に「BS Collection 2020 ～取り組み･成果発表会～」を開催しました。

「BS Collection 2020 ～取り組み･成果発表会～」概要

今年度は新型コロナ感染拡大防止の観点から，7つの会場に分散してTeamsのオンライン会議により実施し，約70人が参加しました。

発表は，新型コロナ対応としての「テレワーク」や「Teamsの活用」「ペーパーレス」に関する内容が多く出されました。

各部からの発表の後，各室部長や本部長･副本部長より講評をいただき，各部から選出された審査員が一番優れていると思った室部の発表に投票しました。投票の結果，「資材部」が最優秀賞を獲得しました。

部門	発表内容
資材部（最優秀賞）	**業務品質を維持した在宅勤務体制の構築について**
BS企画室	新たな働き方にChallenge! ～テレワークシフトを本気で実践～
人財部	Teamsを活用した効率的･効果的な研修･会議の運営
総務部	DX総務部 ーコロナ禍における株主･投資家対応ー
経理部	新経理システム開発での業務標準化･効率化の現時点の検討状況について
情報通信部	「紙様，もう少しだけ…」～委託書類 ペーパーレス化の取り組み～

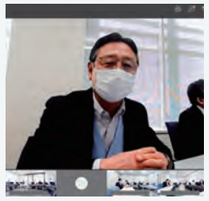

発表者会場


聴講者会場


聴講者会場

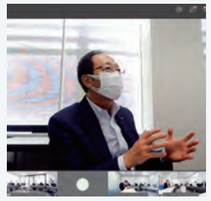
発表会当日の様子。それぞれの会場より発表，聴講を行った

山本本部長･砂子田副本部長からの講評



山本副社長（BS本部長）

昨年度と比べさらに進化していると感じた。中長期ビジョンの実現へ向けてさらに新たな工夫に取り組んでほしい。また，今後は部門を超えて相乗効果を発揮してほしい。



砂子田常務（BS本部副本部長）

各室部の日ごろの努力や工夫，チャレンジにとても驚き感謝している。本日の内容を本部内で実践し合い，また本部外へも波及させてほしい。

発表内容など詳細については**BS本部ポータルサイト**へ掲載しておりますので，ぜひご覧ください!

〖問い合わせ先〗ビジネスサポート企画室　坂本　Tel.910-2355

人財部

就活セミナー「リケジョ･トーク」を開催

― 当社で働く女性から，就活生へ魅力を訴求 ―

当社は，2月17日，ゼビオアリーナ仙台で「理系女子学生のための就活セミナー“リケジョ･トーク”～電力会社で，私らしく，輝く～」を開催しました。

本イベントは，就職活動中の理工系女子学生を対象としたもので，初の開催となります。当社で活躍する女性社員が参加し，仕事の魅力や働きがいなどを発信しました。

入社5年目までの若手女性社員5人がパネリストとして参加し，学生側は現地会場･オンラインによるLIVE視聴により合計126人が参加しました。

「私の仕事と職場環境」「私のキャリア」「私のワーク･ライフ･バランス」などをテーマとした○×形式のパネルディスカッションでは，自らの体験に基づいた本音トークで，明るく元気に学生に分かりやすく回答しました。







福島制御所　運用グループ
（現:電力システム部 中央給電指令所）
佐藤 吾子 さん

― パネルディスカッションの様子を一部お届けします ―

Q 大学で勉強した知識を仕事で活かせていますか

業務で必要な知識のベースとなることは大学で勉強してきたと感じています。しかしあくまでベースだけであり，入社してからの方が何倍も勉強が必要と感じています。もう少し真面目に勉強していればよかったと思うこともあります（笑）

Q 仕事で男女差はありますか

特に感じません。入社時（いわき電力センター 変電課配属）は同じ職場に同期の男性が4人いましたが，業務において差を感じたことはありませんでした。



制御所当直業務の様子
大学で学んだ電気の知識を活かして日々業務に励んでいます



より、そう、ちから。
東北電力ネットワーク

現場と経営層との相互理解を深める

第一線事業所オンラインミーティングを開催



東北電力NWは，コロナ禍においても現場と経営層の対話を進め，相互理解を深めて双方の業務に反映していくことを目的として「第一線事業所オンラインミーティング」を開催しています。本記事ではミーティングの様子を一部紹介します。

2月24日に開催した第13回目となる第一線事業所オンラインミーティングでは，「女性技術系社員」との意見交換をテーマとして，経営層と各支社管内事業所に所属する女性技術系社員7人が出席し，現場の実情や会社の経営方針などについて活発な意見交換を実施しました。

冒頭，坂本社長より，「当社活動の原点･企業価値の源泉は現場。皆さんの取り組みにより当社の企業価値が生まれる」，「コロナの制約がある中で，現場と経営の距離を近くしていくため経営層と皆さん方の直接的なコミュニケーションの場をこれからもいろいろな形で持っていきたい」と話をした上で，**「会社への期待･不安」「地域との関わり」**などについて率直な意見交換が行われました。

寄せられたさまざまな意見などについては，経営層から回答するとともに，今後の経営および現場業務に反映していくこととしています。

出席者から出た意見

女性技術者のマイナスイメージを払拭し，女性技術者が職場のキーマンとしての業務を経験していけるように道を切り開いていきたい。

技術職のリモートワークは膨大な資料の電子化，現場作業への対応といった課題がある。これらの整備については，現場の意見を聞き，反映するようにお願いしたい。

新しい働き方への挑戦

社内ICT環境の整備が進み，**「移動不要で多地点を対象に」コミュニケーションを取れるメリット**を活かせるようになっています。本取り組みは，経営層が第一線事業所社員の意見や想いを聞くのに有効なツールとして，今後も継続して実施していくこととしています。

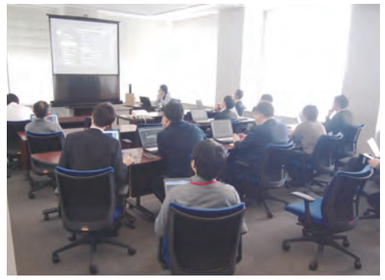
2020年度 火力部門技術開発報告会を開催

2月9日

火力部は,「2020年度 火力部門技術開発報告会」を開催した。この報告会は,技術開発成果の水平展開・共有化を図ることを目的に毎年開催しており,初のオンライン開催となった今回は本店,火力発電所,関係会社などから約150人が参加した。報告会では,最低負荷低減運用の検討や,石炭灰の適用拡大,煙道部空気吸込個所特定に関する研究など,関係会社を含め5件の成果について報告され,聴講者による活発な質疑応答が行われた



あいさつをする阿部火力部長



聴講の様子

(一社)日本電気協会東北支部[共催:(公財)東北電業会] 令和2年度 東北電気関係事業考案・研究発表会を開催

2月2日

(一社)日本電気協会東北支部(支部会長:海輪当社会長)は,当社本店において「令和2年度 東北電気関係事業考案・研究発表会」を開催した。東北地域の電気関係事業の技術水準の向上と技術開発の推進などを目的として,1988年度から開催しており,今回で33回目を迎え,当日は東北電力ネットワークの2件を含む4件の研究成果が発表された



開会あいさつをする齋藤事務局長



配電部(配電技術)佐藤副長による発表

賞味期限間近の備蓄非常食を有効活用

賞味期限間近の備蓄非常食をフードバンク※に提供する,地域に寄り添う取り組みが各事業所で行われています。本取り組みは,各事業所が提供先のニーズを十分に確認した上で行っているものであり,提供先からは「生活困窮者などに温かい食事を提供できるのでありがたい」と感謝の言葉をいただいています。

事 業 所 一 覧

五所川原電力センター	⇒	五所川原市社会福祉協議会
青森支店・青森支社	⇒	青森県母子寡婦福祉連合会
水沢電力センター	⇒	奥州市福祉協議会,金ヶ崎町社会福祉協議会
一関電力センター	⇒	一関市社会福祉協議会
宮城支店・仙台電力センター・岩沼電力センター	⇒	フードバンク仙台
天童電力センター	⇒	天童市社会福祉協議会
総合研修センター	⇒	特定非営利活動法人ふうどばんく東北AGAIN
いわき地区3事業所	⇒	特定非営利活動法人ザ・ピープル
新潟電力センター	⇒	フードバンクにいがた

※安全に食べられるのにもかかわらず,包装の破損や過剰在庫などの理由で,流通に出すことができない食品を企業などから寄贈し,必要としている施設や団体,困窮世帯に無償で提供する活動



青森支店・青森支社



五所川原電力センター



水沢電力センター



宮城支店・仙台電力センター・岩沼電力センター



いわき地区3事業所



新潟電力センター

退 職 者 の 方 々

長い間ありがとうございました



グループ戦略部門付
東北自然エネルギー出向
鈴木 正浩



水力部付
東北自然エネルギー出向
林 勇



土木建築部付
ユアテック出向
遠藤 良幸



情報通信部付
東北インテリジェント通信出向
山川 隆



青森支社
竹山 美虎



秋田支社付
東北送配電サービス出向
菅原 満也



山形支社付
ユアテック出向
吉見 浩次郎



福島支社付
ユアテック出向
髙木 健男



福島支社付
東北送配電サービス出向
佐藤 勝彦



石巻電力センター
配電技術サービス課
中道 仁志

2021年1・2・3月の退職者(敬称略) ※所属は退職時のもの

冊子「BRIDGE」終了と「デジタルBRIDGE」開始について

冊子BRIDGEは今号をもって発行を終了し,2021年5月,WEBサイト「デジタルBRIDGE」にリニューアルします。

1951年7月の創刊から1993年4月に「BRIDGE」に改題し,今日までのおよそ70年間,本726号にいたるまで,その一貫一貫に多くの社員・関係者の方々の想いを込めて読者の皆さまに本誌をお届けしてきました。

リニューアル後もその想いは変わらず,「社員と社員」,「社員とお客さま」を結ぶ架け橋となるような情報をお届けするよう,BRIDGE担当一同努めてまいりますので,どうぞ引き続きご愛読のほどよろしくお願いします。

表紙で振り返る ~ 社誌70年の変遷 ~



社誌1号表紙
(1951年7月)



社誌100号表紙
(1968年5月)



社誌200号表紙
(1977年3月)



社誌300号表紙
(1985年7月)



社誌400号表紙
(1993年11月)



社誌500号表紙
(2002年3月)



社誌600号表紙
(2010年7月)



社誌700号表紙
(2018年11月)

編集後記

コロナ禍での2回目の卒業シーズンを迎え,これまでとは異なる春をまた迎えます。とは言え,あらためて考えてみると,コロナ禍が無かったとしても「同じ1年」は訪れることはありません。一年一年,一日一日が特別の連続という意識を持ち,日々の業務・プライベートを充実させたいものですね。

さて,卒業には新たな出会いがつきものです。冊子版BRIDGEは今号で卒業を迎えますが,読者の皆さまと新しい社内報の出会いが素敵なものとなるよう準備を進めていますので,ぜひWEB化後もご愛読のほどよろしくお願いします。それでは,また5月にお会いしましょう。

ソーシャルコミュニケーション部門 コミュニケーション企画ユニット 高橋
Tel.910-3027,w130065



相双電力センター 配電計画課
佐藤 走さん(左)
高橋 陽介さん(右)

表紙の写真から

今月の表紙は,今なお懸命に復旧・復興作業に尽力する相双電力センター社員です。地域の復興を電力から支えるという熱い想いを胸に,堂々と立つ姿に頼もしさを感じます。撮影場所は,双葉町の新たな復興拠点である中野地区復興産業拠点内に昨年オープンした「双葉町産業交流センター」です。一日も早い,震災からの復興を祈念しています。